

## 第5回 滋賀県観光事業審議会 議事概要

### 1 開催日時、場所

令和2年12月21日（月） 15:00～16:30

大津合同庁舎7-A会議室

### 2 出席委員（敬称略、五十音順）

○委員：石川 亮、伊吹 恵鐘、岩田 春美、金子 博美、川口 洋美、  
近藤 直人、佐藤 泉、羽田 真樹子、人見 能暢、廣岡 裕一、  
松田 大祐、道又 隆弘、吉田 満梨、渡 正美

○オブザーバー：、藤木 純一郎、西川 直治

### 3 議事等

- 森中商工観光労働部長挨拶
- 新委員の紹介
- オブザーバーの紹介
- 定足数の確認

#### 議題1 『「健康しが」ツーリズムビジョン2022』の改定について

- 事務局より資料2、資料3について説明があった。

（廣岡会長）

- それでは本件に関しましてご意見やご質問を伺いたい。観光事業者の方には現在の事業活動等へのコロナの影響等についてもご発言いただければと思う。資料の最後のところに「これまではビジョンの目標として数値が挙げられていたが、アフターコロナの時代になると数だけを追っていくというのはあまりそぐわないのではないか。だから「質」という目標の検討が必要ではないか」と書かれているが、その「質」を図る目標としてどんなものがあるか、といった意見でも結構である。

（佐藤委員）

- 前回の会議の時に春から夏にかけての厳しい数字の状況を報告させていただいたが、厳しい状況はいまだ変わっておらず、そういったことを皆で判断する際にある一定の数字

が分析しやすいと感じている。黒壁の方でも、リピーターが多いということはそもそも言われていたが、「質」の向上ということに今後注力していこうという方向で考えている。先ほどの資料の説明にも絡むが、7月に「今こそ滋賀を旅しよう！」という企画が始まってから、長浜でもご利用数が多く、8月など全体の売上の約2%がそのクーポンをお使いいただいたという状況。独自の反省点ではないが、ご利用に際して、旅行会社さんや宿泊施設さんから、「お客様にご案内するのにどこの店舗でクーポンが利用できるかがちょっとわかりにくい」というご指摘があった。そういったところも、活用させていただく私共の方でもお客様に最初にご案内できればいいなと感じた。

夏にかけては、去年の春に比べて10%に満たないほどの来場者数が半分くらいにはもどってきたが、それでもまだ厳しい状況。ただ、夏にビューローの方々とのお話で、県の方にも教育旅行の問い合わせがかなり多いということだったが、長浜の方も比較的感染者数が少ないことと密になりにくいところ、あとは宿泊施設があるということ、そしてガラス工房は体験教室を幅広く開催しているので、学生の受け入れが可能ということで、教育旅行の問い合わせをかなりたくさんいただいた。結果10月と11月は、同じ滋賀県の南や北から地元の魅力再発見という形で、学生や近隣の都道府県からのご来場に助けていただいたという印象を抱いている。秋のイベントはことごとく中止になることが多かったが、毎年10月には黒壁スクエア含めた商店街のエリアを活用して、全国から約250のアーティストが集う「アート・イン・ナガハマ」というイベントを開催しているが、1日や2日開催するイベントが今はとても厳しく、今年に関しては「Go To 商店街」の助成などもいただきながら、期間を少し長くして、街中にある空き家を活用し、そこにアーティストに来ていただく企画の開催を予定している。

今回の政府の意向を受けて、年末年始にたくさん団体旅行の予約を受け付けていたが、それがほぼキャンセルとなった。また個人のお客様のご来訪が期待できるかと、対策に努めながらお迎えをしていきたいと思っている。

長期的なビジョンをといつも思うが、まずは目の前にある策しかまだ考えられておらず、本当に1年後2年後先を見据えた企画や対応についても取り組んでいかなければと思っている。

(廣岡会長)

- 「Go To キャンペーン」は色々言われているが、その辺の現況とかもう少しご紹介いただきたい。

(金子委員)

○何箇所かの宿泊施設では、4月から6月の下旬まで休館をしていた。「Go To キャンペーン」が始まるということで、緊急事態宣言の終わった頃にそれぞれ再オープンした。当初はいきなりお客様が増えるということではなく、お盆あたりに久しぶりに館内において、お客様の賑わいを見たという状態だった。その後、全国的にもその様な傾向であったと思うが、また平日は少ないままで、9月の連休あたりから、健康な方については旅行されるようになった傾向があり、連休や週末を中心に宿の部屋が埋まるという様な日々が続いた。再オープンするにあたり、それぞれの宿泊施設ではしっかりと設備的にもそれぞれのスタッフもコロナ対策もとっており、来られるお客様も皆様ルールを守って来てくださっている方ばかりなので、今のところ何かトラブルや発病されたというようなケースはない。私どもの会社もありがたいことに「Go To トラベルキャンペーン」や「今こそ滋賀を旅しよう！」のおかげで一時期に部屋が埋まるという事態にはなった。しかし、この度、また停止ということになり、そこから毎日キャンセルが続くようになり、かなりそれが大きい桁でどんどんと増えていっている。これが、現状のご報告になります。

世界中でこういう状態なので、また今後「アフターコロナ」や「アフターGo To」で来ていただけるような工夫と、まさにこのビジョンであげられているような滋賀県というところを選んでいただける工夫を更にしていかなないと、と思う。「アフターコロナ」になった途端に世界中が旅行のライバルでもあるので、そこで見つけてもらうというのが先ずポイントであり、そこで力を発揮できるような状態を今まさに工夫できる時かと思っている。

ビジョン目標と戦略について、個人的には「質」はこれまで以上に上げていかないといけないと思う。入込人数は、今までに満足していたわけではない。具体的な目標人数を作るかどうかは別として、目標があまり高くないと、皆さんの意気込みも下向きになっていくと思うので、「今までより下がる」や「今までぐらい」ということではなく、それを上回る勢いで来ていただくという様な希望数値を持ちながら、その「質」を高めていかないといけない。「質」も高めながら人数も高めるところを何とか考えていければと思う。

(人見委員)

○滋賀県においては県の施策「今こそ滋賀を旅しよう！」を「Go To (キャンペーン)」よりも早い段階で取り組んでいただいたおかげで、先ほど説明のあった【資料2】6ページと7ページにある「延べ宿泊者数」の推移に表れた。実施まで滋賀県は全国平均より少し低い状況が続いていたが、7月については全国42%に対して滋賀県46%、8月が全国41%

に対して滋賀県 47%、9 月は全国 53%に対して滋賀県 64%と全て上回っている。早い段階で取り組んでいただいた効果が確実に数字に表れている。

ビジョンについては、「ニューツーリズム」というキーワードが先ほどの【資料 3】17 ページに『「滋賀らしいニューツーリズム」を展開』と記載がある。アフターコロナについても、滋賀県へたくさん来ていただける機会を作っていくためには、早い段階から準備をすることが非常に大事だと思っている。その中で「アドベンチャーツーリズム」というキーワードが資料に書かれていたが、この「アドベンチャーツーリズム」について滋賀県は非常に優位性があると思っている。日本で今一番取り組みが進んでいるのは北海道の阿寒エリアで、我々と同じ阿寒湖という湖があるが、滋賀に比べ都心から離れているという点や気候や環境の違いもある。滋賀県においては春、夏、秋に気候のデメリットはなく冬になればスキーもできる。加えて、大都市圏からも近く名古屋と大阪の中間地点にある。「アドベンチャーツーリズム」に必要な自然や体験やアクティビティ、そういった要素がすべてである。従って、「ニューツーリズム」のキーワードで「アドベンチャーツーリズム」に視点を置かれているという県の方向性については、全国に負けないようなポテンシャルがある滋賀で取り組めば、非常に強いコンテンツとなって日本国内においても先進県になれると考えている。

(廣岡会長)

○これから観光を復活させる中で「Go To キャンペーン」があり、滋賀県の方での施策が先取りしていて、それで功を奏しているとしているというご意見だったと思うが、これからのような施策があるか。県だけではなくて「Go To キャンペーン」のようなものの在り方でも結構なので、その辺のご意見をいただきたい。それ以外でも結構。

(伊吹委員)

○今程ご説明をいただいた『「健康しが」ツーリズムビジョン』の展開について、「健康しが」の動向、良くも悪くも一つの特性だと思うが、滋賀は観光の素材はたくさんあるがもう一つという、そうしたものを踏まえながら少し思ったことを申し上げる。

今回『「健康しが」ツーリズム』という風になっているが、これは正にある意味今回の「ニューノーマル」とか「アフターコロナ」「with コロナ」ということを先取りしたようなテーマがここでもう既に出ている。少し言葉は悪いかも知れないが、これも一つのチャンスなのかも知れないと思う。そしてここに書かれている健康。滋賀県は日本遺産でテーマとして「水」と「祈り」と「暮らし」というのが書かれているが、「健康」であ

り「水」であり「祈り」というのは、世界の全ての人類が共通している根本問題であり、これは、大変なテーマが前面に出されているなど思っている。

実際「健康」では既に指標が出ており、平均寿命が日本一、健康寿命も確か1位2位だったと思う。それと県民の医療費も、確か千葉や埼玉に続いて日本で4番目の低さと思う。これはおそらく逆相関になっており、すでに実績として出ている。また「水」についても、単なる水が豊富というのではなく、琵琶湖に対し半世紀に渡って一生懸命取り組んできた。その歴史やそういう県民性、滋賀県にあるビジョン、「祈り」というものが出過ぎているその文化、これは正に滋賀県の特徴だと思う。

「その様な滋賀県へ来てください」「健康な暮らしをしています」「非常に水を守っています」、或いは「そこに祈りがあるという土地柄です」というのを今度はもっと前面に出し、それらを打ち上げているだけではなく、こうした文化を是非とも見に来てくださいという発信をもっともっとしていくべきだと思う。実際に取り組まれており、指標も出ている。それらを出すことによって、「with（コロナ）」「アフターコロナ」これからの「ニューツーリズム」と言われている時代において、その様な背景が大きなインセンティブになってくると思う。人見委員も話されていたが、資料を見てもそれを裏付けているような気がする。数値がすごく落ち込んではいない。また医療業界の回復が早いというのは、取組みだけでなく、そうした滋賀県の背景（バックグラウンド）があるのではないかと考えており、大きな一つのヒントになると思う。

その中で滋賀県は観光というだけではなく、3つの健康（「自然の健康」「社会の健康」「人の健康」）にも全面的に取り組んで行かれると思うが、それは健康や観光だけでなく産業、或いは生活すべてにおいて底上げの大きな要素になってくると思う。そうしたものにぜひ取り組んでいただきたい。

そして最後に、滋賀県は今のこういう仕組みを持たず体制が弱いと思う。要するにDMO、その機能を強化していただきたい。つまり素材はあり食材は良いものがあるが、それをどう調理して皆さんに「食べてみたいな」と思わせるか、それを作るのがDMOなのかと思う。DMOにもっと力を入れ、あるいは資金も投入いただき、そういうものを展開していただけたらと思う。そうすると、京都や大阪や東京など華々しい観光もいいが、特にインバウンドなどにより京都、大阪から、滋賀県に流れてきて滞在してくれる、またその暮らしが味わえる、ということになると思う。付け加えさせていただくと、DMOもいいが私はDMC（「0」ではなく「Company」）くらいのところで強気に動かしていただけたらと思う。

(廣岡会長)

- 「ニューツーリズム」のページで出てくる豊富な観光資源をどう生かすかという部分で、押しが少し弱いのではないかと、そこには DMO あるいは DMC に期待されてどうしたらいいかという話だったと思う。そういうところも含めて意見もあればお願いしたい。

(川口委員)

- 当社はインバウンド事業者だが、皆様もご存じの通り 1 月以降全く動きがない状況で、3 月に注文が全てキャンセルになって今年の注文はもうお終いということになった。当社では、今のところインバウンドの予約はほぼ 1 年前から入るような状況なので、来年の 4 月、それから来年の秋の予約はいただいているが、これがどうなるのかというところである。海外からダイレクトに来るケースと一旦東京で受けて東京の手配業者から来るケース、またお客様から直接来るケースなど、B to B、B to C の両方あるがどなたも今は分からないような状況で様子を見ながらも、とりあえずはなんとなくゲートがあきそうだから 4 月は少しホールドしておこうかという様な状況で注視している。

私どものようなアクティビティを提供しているところは、他の都道府県でもたくさんあるが、その方たちの話や動向をいろいろ見聞きしていると、やはり同じような状況で苦しんでいる。私どもは、これから必ずゲートは開くし、1 年 2 年ではなく、もう少し先を見据えてどういうふうにしていこうかと、色んな研修を重ねつつ新しいコースを開拓したりしている。地域密着型のツアーをしているので、お世話になっている農家や取引先の方との関係を切らさないように、距離はとりつつもできるだけ関係性は密に研修の様な機会を重ねている。

この資料を拝見して、これから世界的に見ても「新しいニューツーリズム」を推進していく動きになっていくかと思う。ただ一方で、今回のような事態に遭遇して、やはりこの観光業界というのはものすごくリスクも高いと思う。なので、新しい事業者や提供者に、リスクヘッジ策をよく考えてからこの業界に参入することを奨励しないといけないと思う。ほぼ 2 年に 1 度何かが起こっており（前々年が台風、地震）、今回のようなコロナ以外にも、もしかしたら気候変動もあるので、もう少し頻繁にいろんなリスクが襲ってくるとなると、この業界だけに限らず、もろに影響を受けるということがよくよく分かった。行政でいえば、何か起きた時にすぐにその人達を救済するような策を考えてあげる必要があると思う。下手にアクティビティは今から来ますよと言って新規参入を促すのはいいが、台風などがあるとそれで一気に注文が止まってしまう。次に何かまた起こるということを考えておかないと、事業者としてやっていくのはすごく大変で、そのあたりのバランスが非常に重要だと思う。

もう一つこの新しいビジョンに関して、今回のこのコロナでよくよく感じたのは、自分がやっているのが農村の生活文化を体験するツアーだからということだけではなく、住民の方たちが観光を国策として、本当に大事なんだと理解していただくこと。特に人口が減って外から人に来ていただくことがやはり必要だということを地域の住民の人たちに理解していただくような、行政の方たちからの発信といった努力も必要なのではないかと思った。

そのためにはこのビジョンに「これが最終的に地域住民の皆さんの幸せにつながるんですよ」ということがわかるような、押し付けでも上から目線でもなく、これって大事なんだということを分かっていただけるような柔らかいメッセージがあるとよいと思う。大津の市民憲章にも「あたたかい気持ちで旅の人をむかえましょう」とあったと思うが、そういう気持ちが伝わるとそれが観光客の方にとっても嬉しいものなのではないかなと思っている。

そして最後に、先ほど伊吹委員が、仰られた「水と祈り」ではないが、インバウンドをやっていて、お客様に関してすごくそのスピリチュアリティというものを大切にしていっていらっしゃる方が多いと感じる。熊野古道の人気の実証されているのではないかなと思うが、このような時代なので何かしら目に見えないものに対する、畏怖の念や畏敬の念のようなものを感じて、神秘性といったものに対してものすごく憧れの念をもって来られる方が多い。このコロナ禍において日本の中でもアマビエが流行ったり、皆さんも多少は神社にお参りに行ったかと思うが、いろんな行事の中で目に見えないものにすがりたい気持ちなど、そういう気持ちはまだまだこの先進国の中にも残っている。そういうものを見せていったら、これが日本人なんだということで喜ばれ、「オーサム」という気持ちを持っていただけるのかなと思っている。私どももそれを少し意識して、あまりスピリチュアルすぎると向こうの方の宗教にも影響すると思うので、その辺りを柔らかく演出していけるようなことをしていきたいと考えている。

(羽田委員)

○報告になるが、「今こそ滋賀を旅しよう！」のキャンペーンについて、弊社の店舗は山の中の一軒家みたいなところにあるので、正直このキャンペーンに参加したけれども蚊帳の外かなという思いはあった。蓋をあけてみれば、自分たちが思っていた以上にクーポン使っていただいてありがたかった。このクーポンの処理の仕方も、たいていクーポンの場合は枚数を数えて商工会や市役所に持って行くが、数字を入力するだけで随時処理ができるので、担当の者も楽だと言っていた。ありがとうございます。バンガローとかテントサイトの方は、夏休みの大きな子供会や市の行事など全部なくなったが、家族単位やグル

ープ単位で泊まっていたら、秋冬も週末は満室になっている。ソロキャンプなどが流行ってきたこともあるが、週末などは雪が積もっていても、その中で何組かテントされている方もいらっしゃる。今までにないくらいテントサイトも流行っている。この「適度な疎」が安心感を与えているのかな、という感じがしている。

(渡委員)

○滋賀県のコンビニは割と広いところが多いが、すべてのコンビニや寺社仏閣、宿泊施設に全部充電スタンドができたらいと思う。12年前に買った車に乗っており乗り換えるか迷っていたが、10年後には新車のガソリン車がなくなるというニュースを聞いた。どのタイミングで電気自動車にみんな乗り換えていくのかと思う。今はイオン等でしか見たことがないが、寺社仏閣や宿泊施設など琵琶湖周辺5キロごとに1~2台止まれる駐車スペースと充電スタンドがあれば、そこを目指してドライブがてら走っていき、充電しながら滋賀を回れる。そのような形にしてくれれば、地域住民の方も自分の家から離れたところでもすぐに充電できるようになり、このような安心感があれば滋賀県内で電気自動車がたくさん走るようになり環境も良くなる。草津から少し離れると、バスが少なかったりバスの料金が高いという話を聞く。例えば寺社仏閣や国宝があるようなところ、信楽の駅から車で10分など歩けないと思うようなところでも、シェアカーが全てのJRの駅ごとにあることで、皆が行くようなきっかけになるといいと思う。

また、車の利用は絶対増えると思っている。20年から30年後はわからないが、おそらく5年くらいの単位でいくと電気自動車も増えてくると思う。その時に環境に配慮されている車が滋賀県内にたくさん走っているのは県民としてもありがたいし、観光客の方も今まで以上に団体のバスツアーよりも自分たちで行きたい所に行きたい時に行けるというところが魅力になると思う。何年後かのランキングで「電気自動車が一番走っている県」「ここに行ったら遠方から来ても安心して旅行ができる」ということになれば、電気自動車を持っている人の旅行先のきっかけにもなるのではないかと思う。

個人旅行だが、JR等は個人プランが少ないと思う。コロナなので、前向きに一人旅とか一人プラス多くても二人ぐらいの旅行プランをより多く活用できたらいいと思う。

ワーケーションについて、私が一人で仕事をして夜遊ぶ等というのはわかる。もし家族を連れていた時にお父さんはそれでいいが、残された奥さんと子供の面倒を誰がみるのか。ホテルや宿泊施設などで子供達を集めて何かできる児童館的な取り組みなど、お母さんにしても子供にしても（逆の方もあってと思うが）ワーケーションに連れていかれた人がその場で楽しめるプラン等が無く、過ごし方が分からない。昼間仕事をするのはまだ分かるが、それに連れていかれる人はどうなるのだろうと思う。そういうところのイ



メージがしばらく、実際行ったら違うとなってしまう気がするので、ワーケーションはまだまだ余地はあると思う。普段都会にいてちょっと行ったらコンビニがあるといった生活をしている人が、仕事している人はいいがそれ以外のいきなり連れていかれる人はどうするのか、となる気がした。そういったところを救済できるようなプランを一緒に出してあげたら、もっとワーケーションというのがイメージとして「こういう風につかえばこういう風になる」というのがわかると思う。

(道又委員)

○渡委員のお話とも関連すると思うが、滋賀の大学に通う大学生や普通っていた元学生と話をすると、滋賀県に住んでいながらあるいは通っていながら滋賀県内をほとんど観光したことがない方が非常に多い。行きたいところや行ってみたいところは見たり聞いたりするが、散在しているので、滋賀県は行く手段(車)がないとどうしても京都や大阪、あるいは奈良とかと比べて非常に回りにくい。学生で車を持っている人はまだいいが、車がない人はそこで挫折してしまうといった感じで、結局4年間あまり滋賀のことを知らずに学生生活を終えて故郷や滋賀県を離れてしまう、ということがリサーチしたわけではないが非常に多いのではないかと考えている。そういうところで何か働きかけというか誘導策というのは、もう少し県としてあるいは業界とか地元としてできることがあるのではないかと感じる。

エコというか環境先進県という風に滋賀県はずっと言ってきたが、私が初めて滋賀県に赴任した1990年代の初め、その時は琵琶湖の環境を改善するためのいろいろな先進的な施策があり、あるいは福祉面でも先進施策があった。環境先進県というけれども、環境的にこの10年間で何か政策があったかというあまりこれといったことがない。せつかく三日月知事がCo2の削減を日本政府に先駆けて言ったところでもあるので、そういったことを施策に落とし込むのに今仰ったような「日本で一番Co2を排出しないような車が走っている県」ということPRして、もう一度何か観光に具体的に行動していくということまで含め注目を浴びるようなきっかけこそが、観光と結びつくのではないか。あるいは学生と話していて、最近の若い人はSDGsという言葉がキーワードにされたりする。滋賀県の大学に行っている人が滋賀県でSDGsをどういう風に考えられているかという、何か雲の上の話が多く、滋賀県でいかに環境というものが人々の意識として大事にされているか、といったような具体的なことがあまり知られてないなといった感じもする。そういったところでも何か環境というのがキーワードになってくるのではないか。昔は滋賀県に大学が少なかったが、今は非常に増えて、本来ならいろんな形で帰ってからも滋賀をPRしてくれる人材がいるにも関わらず、あまり育てられてないかなと感じている。

すぐに観光の振興に結び付くということではないかもしれないが、そういった小さな観光大使を増やしていくというのもマイクロツーリズム時代はもっと重視されてもいいのではないかと思う。

(廣岡会長)

○ありがとうございます。大学の立場から石川委員お願い致します。

(石川委員)

○地域実践領域というのは2018年から始まった芸大の中で「地域が、地域社会が、あるいは未来社会をどう生き抜いていくか？どんな社会があるべき社会なのか？」ということをやっている研究室だが、地域で実践がしづらくなった。前回もリモートで話したが、大学というのは様々なルールがありなかなか学生を外に出せない。その中でどうやって地域実践していくのかをずっと考えている。特にフィールドワークを沢山するクラスなので、2人から3人のグループで活動するという活動計画をとっている。特に今は「街道とまちづくり」や「水辺の暮らし」にテーマを置きながら地域の魅力を探していこうといったことをしている。何が言いたいかというと、先ほど人見委員も話されていたが、「ニューツーリズム」のアイデアをどんどん出すことが大切だと考えている。たくさん失敗しトライ＆エラーを繰り返しながら、とにかくコロナの中でどう生き抜いていくのかということを実践でやっていくしかないなと考えている。例えば岡山や沖縄など様々な県から私のクラスに入るが、滋賀県出身と岡山や滋賀県出身と沖縄などで組ませたグループ2人から3人で行かせる。すると他府県から来た学生がとてもびっくりする。一方で自分のまちを案内する学生は、一緒に学んでいる学生が魅力を見つけてたくさん色々なことを言うので、自分のまちがそのような見え方をしておらず「えー？」と思う。そうすると自分のまちの学生が、自分のまちの見え方や暮らし方を意識し出す。「あ、そうなんだな」と。そうしながらお互いに住んでいる所が違うということが一つの引き金になり、魅力を出し合う、というやり方があると思っている。もう一つは、地域で実践しにくくなったので、極力近くで新たな結びつきを作っていくことが、この「ニューツーリズム」の新しい一つのやり方かなと考えている。特に今は湖西地域のいろんな人とつながりながら、このコロナが2~3年で終息するとは思えず、何かやらざるを得ないということなので、色々な「ニューツーリズム」につながっていくような試みを普段から考えて実践しているところだ。またコロナ禍になって始めたことだが、自転車にほぼ毎日乗っていて新たな気づきが出てきた。自転車に乗ることで「健康しが」の話や、もう一度自分たちが見えていないとこ

ろをしっかりと見ることができる。「この時間帯にあつこのおっちゃんがこういう動きしてんねんな」など世の中や地域の動きや流れが見えるようになってきた。コロナが与えてくれた、という少し不謹慎かもしれないが、新しい生活、これから自分たちがコロナを超えてもう一度自分たちの向こうと向き合いながら社会と向き合っていく、そういうことを考える時代が来たのではないかと考えている。その中で、地域と向き合いながら実践していくべきだと考えている。自分の今の大学の取り組み方のような話になったが、そういったことが何か新たな「ニューツーリズム」につながればいいと考える。

(岩田委員)

○最近のガイドの現状をご報告させていただく。コロナ禍の中、9月からガイドを再開したがまだまだ回復していない状況で、10月からはガイド数もずいぶん増え、秋が深まり紅葉の季節を迎えると観光客はうなぎのぼりである。バスでの来訪者は減ったものの、マイカーでのお客様は増加傾向である。安土城は、9月、10月、11月は昨年並みのガイド要請があり、戦国ワンダーランドイベントでは、土曜日曜に鎧武者のおもてなしで大いに盛り上がったようだ。また紅葉の名所、永源寺、百済寺、近年人気上昇中の教林坊も例年と変わらず多くの観光客の受け入れがあった。また12月に入ると、株式会社ワールド航空サービスの東京・名古屋・大阪・札幌の各支店の観光客の受け入れがあり、五個荘では12月3日から12月14日の1週間で約300人の来訪者に対するガイド要請があり、近江八幡や彦根市でもほぼ同数の要請があったようで、湖東地区で約1000人の受け入れがあった。また、KBS京都テレビで12月13日に放映された、『走る男』でおなじみの森脇健児と構成作家の柳田光司お二人の司会による『あんぎゃでござる!!』で五個荘の街並みが放映され、マスメディアの影響で来訪者が増えることを期待している。コロナの感染防止を考え、私たち自身が行う感染対策として「手洗い」「消毒」「マスクの徹底」「3密を避けること」を心がけ、来年もお客様をお迎えすることを心掛けている。

(松田委員)

○お話を伺い、我々公共交通機関が果たす役割というものが非常に大事だと思っている。いま岩田委員からも話があったが、鉄道に乗っていただける方が大きく減っている。車内換気などの感染対策をしっかりと、「安心して鉄道をご利用いただけること」を継続してお伝えしているが現状厳しい。マイカー利用が増えているが、持続可能な観光という観点では、二次アクセスとして本日話題にも上がったが、カーシェア、シェアサイクル、そしてウォーキングと鉄道との連携が大事だと感じた。皆がマイカーで観光することになったら観光は成り立たないと思う。

ビジョンの話で1点だけ申し上げる。来訪回数というところだが、いわゆるリピート率にもつながると思う。当面近場の皆さまに来ていただくということになると、このリピート率をいかに上げるかということがとても大事だと思っており、JRとしても関係人口を増やしていく、特に京阪神から滋賀に繰り返し訪ねていただく方をどうやって増やしていくかということをしっかり取り組んでいきたいと、今日お話を伺いながら感じた。

(廣岡会長)

- 次の議題である『「健康しが」ツーリズムビジョン 2022』のアクションプランについて、まず事務局のほうからご説明をお願いします。

## 議題2 『「健康しが」ツーリズムビジョン 2022』アクションプランについて

- 事務局より資料4、資料5について説明があった。

(廣岡会長)

- 本件に関しまして近藤委員から、市町村の活動で補足するところがあればお願いしたい。

(近藤委員)

- 甲賀市の観光・振興計画の実施計画を見直す時期になり、今年度から来年度の上半期に向けての見直しをかけるということで動きかけたところだ。本来今年度中に改正する予定だったが、コロナの関係で会議も開けないということで半年ずれている。市でも目標数値等をどうしていくのかということで部内・課内の方でも色々と議論をしているが、数字を持たないというよりも、やはりもう数字を落としていかない、下げていかないということで一定の伸びしろの数字を示しながら、それに皆が向かっていくというのが大切ではないかと感じる。ただ、今までにない状況ということで、ある意味ガラッと考え方を変えていくということも一つ必要なのではないかと思う。甲賀市の場合は(信楽は特に)団体のお客様が中心の観光ということで、ちょうど「Go To」が始まり、団体のお客様も戻りつつあった。しかし今の第3波でピタッと止まり、特に寒い地域のため12月、1月、2月は従来からお客様の少ない時期ではあるが、見事に止まったところである。いろいろと宿泊関係の方に聞いていると、「Go To トラベル」は一時中止になるということでキャンセルが多く入って来ているが、「今こそ滋賀を旅しよう！」の分で若干持ち直しているという意見もある。行政がしっかりその辺りを支えていけるのかということが、今後課題にもなってくる。先ほども意見があったように、どのようにして事業者の方を支えていくのかと

いうところ。またインバウンドが始まると、どうしてもやっぱり怖いなという地域の声も出てくる。前回紹介させていただいたが、信楽でもそういった状況もあったということだが、やはり地域がプライドを持ち、地域が褒められていると見られていると、それをまた一生懸命みんなでもっとお客さんに来ていただいて楽しんでいただこうというようなホスピタリティにつながっていけばいいと思う。ただ、お客様に来ていただきたいが、「密集すると」「密になると」というところの兼ね合いをどこまでどう見ていくのかといったところが課題だと思う。

今、市では総合計画の方の改訂の時期ということで、その中でひとつエッセンスとして「新しい豊かさ」というキーワードを盛り込んでいこうということがある。発展するだけがすべて豊かさではないということで、心の豊かさを求めていくようなそういう総合計画の切り口も示されている。そういう分野でいくと、観光の方ももちろん心の豊かさを求めて来ていただけるというところにつなげることが必要なのかなと思う。この資料にもあったが、いろんなエコツーリズムをはじめグリーン・ツーリズム、ヘルスツーリズム、そうしたことで健康になっていただく、あるいはゆっくりして帰っていただき明日からの仕事を頑張らせていただく、そういった癒しの場を観光という切り口でどうやって提供していけるかということだと思っている。今回の議論も、市の観光振興計画の改定の時に参考にさせていただきたいと思っている。県だけではなく、市町村どことも同じだと思っているので、そういった議論を県の観光振興計画ということだけではなく、それぞれの市・町（まち）も同じ考え方向同じ方向を向き、滋賀県全体の観光をどうやって進めていくのかというところはみんなで考える。みんなで考えようということでない、ALL 滋賀という形になっていかないのかなと思う。

（廣岡会長）

○このアクションプランについて、吉田委員、よければご意見いただければと思う。

（吉田副会長）

○オンライン環境が整ったおかげで、完全に仕事自体はいろんな所で講義・講演をすることも含めて出来ている。逆にオンラインで色々な情報を知る、色々なイベントに参加するということ、このコロナの環境下で非常に新しいライフスタイルとしてかなり定着していると考えている。色々なイベントにリアルで人を集めてということは難しいかもしれないが、プロモーションの仕方によっては、それを動画として配信するような形でより多くの方に参加していただく、というやり方も可能になっているのだろうなと考える。先ほどの資料に関わる話かと思うが、「Go To キャンペーン」や、特に「今こそ滋賀を旅

しよう！」のキャンペーンというのは、とても効果的で素晴らしい成果だったのだと思  
い話を伺っていた。今後どういう形で新しい観光の在り方を展開していくかということ  
を考えるためにも、実際に利用される方がどういう方でどの様な目的で利用されてい  
るのかというようなことを、通常の観光客の対応であれば完全に把握することは難しいか  
もしれないが、実際の利用者の方々についての情報やデータをもう少し集めることがで  
きて、今後の取組みに活かしてくことができればより良いのではないかと思う。ニュー  
ツーリズム戦略構築のための調査事業というのも非常に意義があることだと思っている。  
実際の観光関係の事業者の方に対するヒアリングやインタビューといったものも非常に  
重要だと思う一方で、先ほど皆さま委員の先生方の話題にもありました通り、ソロキャ  
ンプとして滋賀に来ているとか、コワーキングスペースを利用してそこに泊まっている  
ような、観光ではあるがその形が変わってきているところを十分に補足できる何らかの  
データを集めることを、ぜひ施策として展開していただきたい。

(廣岡会長)

- このプランを立てるにあたり、「Go To キャンペーン」等の利用者や違うキャンペーン等  
の利用者の状況を把握しているのか、データを集めるようなシステムについて現状では  
どうなのか、これからどうするのか、ということを事務局の方から説明いただきたい。

(事務局)

- 今回の「今こそ滋賀を旅しよう！」の取組みについては、精算の仕方がすごく簡単で便利  
だというご評価をいただいた。かなり IoT の力も使いながら行っているため、そういった  
データを一定はとれるのではないかとはいっており、宿泊施設のデータも含めてその先  
のこういった施設で利用されたかということまで含め、しっかりデータというのは見  
ていきたいと思っている。まだ今は事業継続中なので詳細な数字は把握できていないが、  
また取り纏まったらこの場でもお披露目できたらと考えている。

(廣岡会長)

- それでは時間も迫ってきているので、次の議題にいきたいと思う。「今後の進め方につい  
て」まずは事務局から説明をお願いしたい。

### 議題3 今後の進め方について

- 事務局より資料6について説明があった。

(廣岡会長)

○本件に関しまして、ご質問などはあるか。この「ニューツーリズム」の調査や、ワーケーション等の状況とかは次回の審議会でご報告いただけるのか。

(事務局)

○これから始める取組みのため、次回の3月の審議会でご報告させていただきたいと思う。

(廣岡会長)

○それでは最後にオブザーバーの方から、ご意見をいただきたい。まず近畿運輸局の藤木様から一言。

(藤木オブザーバー)

○観光庁関係の予算が本日閣議決定された。【資料 2】の後ろに観光庁関係の予算の使われ方が共有されているが、予算が全国でいくらというのがあるのでご紹介させていただく。観光庁のHPにもアップされているので、参考にさせていただければと思う。観光は裾野の広い事業と考えており、ご協力させていただきたいし、逆に教えていただきたいことがあればまたご協力させていただきたいと思う。

(廣岡会長)

○続いて、びわこデジタルズビューローの西川様。

(西川オブザーバー)

○ビューローは、県と車の両輪で滋賀県の観光振興をしているが、ビューローも現在第二期の中期計画の最中。ビューローも今の中期計画を1年前倒しして改定していきたいと考えており、十分に意見を参考にさせていただこうと思う。ビューローの活動ももっと頑張らないと期待に応えられてないなという部分が十分あると思うので、自己満足せずに頑張っていきたいと思っている。コロナ禍の中で、県のほうからビューローに補助金をもらって事業を展開しているが、ビューローの例年予算の3倍から4倍の規模となっている。この予算規模がいつまでも続くというわけではないと思うので、効果的に事業を行いながら、コロナ後に観光客の皆さんが引き続き滋賀県に来てもらえるような状態になっていないといけないと思う。また教育旅行について、滋賀県内の中学・高校生が県内を回ったり、県外の中学・高校生、例えば中京方面からの中学校・高校が信楽に来て、作陶をして次に福井や三重、大阪などへ行くルートも出てきた。大きな学校では、1日滋賀県で活

動される際、例えば大津と守山に分かれて、別々のアドベンチャー体験をして、滋賀に宿泊される事例もある。また、滋賀には、琵琶湖を活用した体験施設が多いため、クラスごとに別の体験をして滋賀県を楽しんでもらうことができるため、コロナ禍の中で本当に新しい形の教育旅行の取組みというのが出てきていると感じている。ビューローとしても今の滋賀県の課題である「宿泊滞在型の観光」をしっかりと目指していきたいと思っており、先ほど出ていた「質プラス量」に向けて、皆さんの意見もお聞きしながら取り組ませていただけたらと思っている。

(廣岡会長)

○本日は皆様から多岐にわたるご意見をいただいた。県においては、本日の議論を参考にこれからの観光施策を検討し、効果的な事業を展開されるようお願いしたい。

○中山理事挨拶

<閉会>